

奥入瀬溪流エコツーリズムフォーラム2008 開催報告

マイカー交通規制に先駆けて、「奥入瀬溪流エコツーリズムフォーラム2008～奥入瀬溪流世界遺産登録研究～」が開催されました。約300名の来場者を迎え、永続的な自然環境保全のあり方について、市民の皆様と一緒に考える機会となりました。



日時 平成20年9月28日(日) 15:00～18:00

場所 十和田市民文化センター

主催 NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学

共催 奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

基調講演

三村 三千代氏

(八戸短期大学客員教授)



明治41年8月に文人『大町桂月』が十和田湖を訪れましたが、奥入瀬溪流や松見の滝、小坂銅山、毛馬内まで足を伸ばしました。まさにしつこいばかりの景勝地への執念は見習わないといけません。観るべきところは全て観る努力を重ねるすばらしい人です。そこで、大切なことは、まず地元の人たちが奥入瀬溪流を愛し、知り、そして美しさや魅力を^{じか}直に肌で触れ合い、実感することこそが必要であり、それによって観光客をはじめ、他の方々に自信をもって伝えることができ、ひいては奥入瀬溪流の世界遺産登録にもつながるのではないのでしょうか。

「奥入瀬溪流の光は私たちの手で」

パネルディスカッション

「奥入瀬溪流のゆたかな自然を守ろう！」

コーディネーターに佐藤正昭氏(青森公立大学副学長)を迎え、「奥入瀬溪流のゆたかな自然を守ろう！」と題し、パネルディスカッションが行われました。



川口 浩一氏
(株)青森テレビ
報道制作局放送部長

三本木高等学校の校歌を作詞した詩人の佐藤春夫氏が来県した際に、十和田湖のすばらしい美しさにたく感動したそうです。「奥入瀬溪流のうた」は、銚子大滝付近の自然石に刻み込まれていますが、コケで碑文が見えない状態なので、勿体ない。是非善後策を講じて欲しいと思います。



小林 孝男氏
画家

奥入瀬溪流の魅力の一つは、流れと道路、歩道がすぐそばにあり、しかも段差が殆どないため、自分の目線で眺めることができることです。このまま手をこまねいていると溪流美、景観が損なわれること必至なので、一日も早いバイパスの完成を願っています。



「奥入瀬溪流の自然を守ろう！」のシュプレヒコールで会場一体となり終了しました。



小笠原 慶子氏
十和田湖奥入瀬溪流観光
ボランティアの会

国立公園内にある奥入瀬溪流では、「一木一草たりとも持ち帰ってはいけない」とガイドしている最中に、地元の方が山菜を採って平気な顔をしているのが気になっています。観光マナー、自然と接するマナーが大切だと感じています。



高橋 七海氏
青森県立三本木高校2年

マイカー規制は必要だと思えますが、地元では観光客が減少するのではないかと心配もあります。是非そうならないよう、PRを充実するなど、地元観光業者へも配慮した形で進めて欲しいと思います。